四季を往く蒸気機関車
SLのすべて　新屋和夫写真集

はじめに

登り勾配にさしかかると、重い荷を引いたＳＬは荒々しく煙を吐き、レールを噛み、全身をふるいたたせて力闘する。助けてくれる者は誰もいない。すべてが自分ひとりの孤独な闘いの連続。それはあまりにも哀れなＳＬの運命なのかも知れない。だが、いつも自分の力で行動し得ると言う事は、時にはまぶしい位に新鮮であり、うらやましい。

峠を登り切って坂を転がっていく姿は、ひたすら家路を急ぐ駄々ッ子みたい。これほど喜怒哀楽を素直な態度でみせるヤツに、好感と興味を覚えずにはいられない私。

今ではもう日本の地から引退してしまい、走る姿を見る事ができなくなってしまった。そして写真では動く姿を見ることはできないかも知れない。

だが私の生命あるかぎり、甦り、走りつづけるであろう蒸気機関車。ＳＬ

そのＳＬの四季折々の姿に目を通してくれる事は、この上ない喜びと感じる次第であります。

著　者

春

駅に降りたのは私だけであった。涼風が顔をなでて行く。
南の国では、すでに花が咲き始めようというのに、ここではまだ冬の世界が広がっているようだ。
朝の冷たい空気は、やはり気持ちよい。
以前より計画していた目的地まで約５キロ、速く歩いて約 60 分で行くだろう。
それから山へ登り、線路を見下す地点へ！　からだ全体に「やるぞ！」という意欲がもりもりと沸いてくる。
途中一度だけ休みはしたが、時間通り到着。ＳＬが来るまであと 30 分。撮影仕度をして来るのを待つばかりだ。
かすかにドラフト音が聞こえる。
来た！全身に力が入いる。幾度となく押して来たシャッターではあったが、やはり緊張する。
押した！やった！全身の力が一瞬のうちにぬけるようだ。
今の今まで無我無中で気がつかなかったが、ふとあたりを見渡すと、あちこちにふきのとうがたくさん芽をふいていた。

朝日の当たる道　力　闘
朝の道　エイタカヤマノボレ
水芭蕉の咲く道　レンゲ草
C 11 入線　桜と菜の花とC 11 と
会津の寸景　ダッシュするC 62
憩　う　南アルプス
C 58 とレンゲ草　急行列車
青　春　サボテン園通過
C 58 とコイノボリ　お召列車
憩うC 11　山峡を行く
レンゲ畑を行く　滝の上
お召列車　山間を行く
お召列車　D 51 三重車
9600 とサンゴ草　快　走
C 58 と斜里岳　サミットまであとわずか
可憐に咲く花　トンネル
春のささやき　のんびり走るポニー
伯耆大山のふもと　カワラ屋根

朝日の当たる道

九州　日南線　内海〜小内海
朝日をいっぱい浴びて走るC 11。
忙しい1日が今日も始まる。

朝の道

北海道　石北本線　呼人〜女満別

網走を後にしたC58が客車を従えて快走していった。

水芭蕉の咲くの道　北海道　石北本線　呼人〜女満別

水芭蕉は湿原に咲く花。泥沼に入っての撮影は冷たい。

C11 入線

東北　会津線　湯野上駅にて
桜咲きほこる中に C11 が入線。
それはまさに春を告げる風景との
出会いであった。

会津の寸景

東北　会津線　桑原駅にて
駅に着いた C11 はこれから給水。
休むひまもなく又走る。

憩　う

東北　会津線　湯野上駅にて

駅の構内には、春を告げる桜が咲いていた。そしてC11も休んでいた。

C58 とレンゲ草

九州　志布志線　安楽〜中安楽

安楽川のほとり大隅地方の春は
レンゲ草を見ることから始まった。

青　春

東北　只見線　会津宮下～早戸

はちきれる若さ！ かけあしする女学生、咲きほこる桜、C11 も加わって一つのストーリーがが生まれそうだ。

C58 とコイノボリ　北海道　釧網本線　清里町〜南斜里

この家にもきっと子供がいるのだろう。子の成長を願って、コイ登りは風になびく。SL は走る。

憩う C11

九州　日南線　油津駅にて

雨も上がり花のかほりに包まれて幸せ行きＳＬの出発も間近い。

レンゲ畑を行く　九州　志布志線　岩川〜大隅松山

レンゲ畑が広がる大隅地方にも春が来た駅を出たばかりの C58 はリズミカルに走って往く。

お召列車

九州　宮崎機関区にて

お召列車けん引の役目を果たし、
のんびり憩う C57―― その名は貴婦人。

お召列車　九州　日南線　榎原〜日向大束

宮崎県植樹祭に活躍するお召列車。この日はあいにくの曇り空だった。

9600 とサンゴ草　北海道　湧網線　北見平和～卯原内

サンゴ草が一面に広がる風景の中をのんびりとＳＬは走り去った。

C58 と斜里岳　北海道　釧網線　清里町〜南斜里

快晴の空、斜里岳がくっきり浮かび人々の夢を乗せて C58 は走る。

可憐に咲く花

東北　会津線　桑原駅にて

動物たちが冬眠からさめる春。会津の里では
ひっそりと花が咲いていた。

春のささやき

九州　志布志線　岩北〜末吉

春の陽ざしに乗ってやってきたC58。
この線区ではめずらしく長い貨物列車だった。

伯耆大山のふもと

中国　伯備線　岸本〜伯耆大山

大山ではだんだんスキー客も減り始め、あたたかくなるとハイカーたちでにぎわうようになる。春は目の前だ！

力　闘

東海　明知線　阿木〜飯羽間

峠目指して C12 は走る。

ニイタカヤマ　ノボレ
台湾　阿里山線　竹崎付近
運材列車が南国風景の中に現われては消えていった。

レンゲ畑草　九州　志布志線　西都城〜今町

春だ！春だ！と C58 は走る。

桜と菜の花と C11 と　九州　日南線　榎原〜日向大束

のどかな景色が展開される日南地方。菜の花と桜に囲まれてＳＬも幸せだろう。

ダッシュする C62　北海道　函館本線　上目名〜熱郛

2 台の C62 が力を合わせて夕暮れせまる峠道を驀進。そこには力強さがあった。

南アルプス

東北　小海線　小淵沢〜甲斐小泉

残雪の南アルプス、甲斐の山々の春は浅い。
春一番吹く風が山々にこだまし、心なしか
C56 のドラフト音にも力が入る。

急行列車　北海道　函館本線　小沢～倶知安

急「ニセコ３号」103 レの先頭に立つ C622C623 も加勢して重連で峠を越えてゆく。

サボテン園通過

九州　日南線　伊比井駅にて

日南海岸サボテン園の下車駅を通過するC11。忙しげに走り去る姿が印象的だった。

お召列車　中国　伯備線　豪渓～総社
岡山県植樹祭を終えて帰途に着くお召列車。

山峡を行く

東北　会津線　弥五島〜楢原

うっそうとおおいかぶさる木々がC11をやさしく包み幻想の世界へと導く。

滝の上

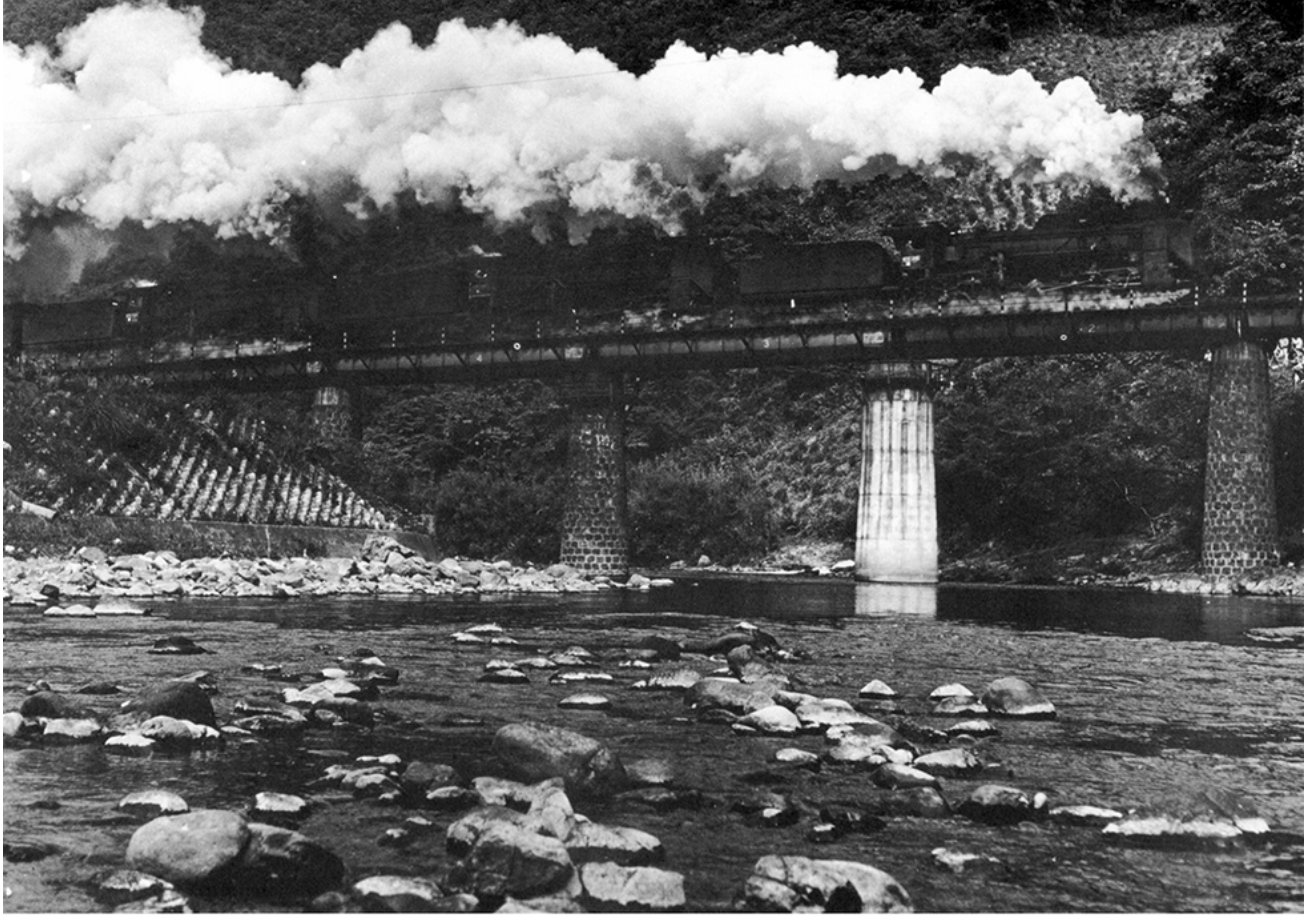
北海道　渚滑線　北見滝ノ上〜濁川

滝の上を滑るようにして走り去る。
春とともに雪どけ水がふえた。

山間を行く

九州　日豊本線　国分〜南霧島 (信)

右手に鍾乳石の見えるこのトンネルの名前は、「天の岩戸」。
やはり日向国をるのにふさわしい所であった。



D51 三重車　中国　伯備線　布原 (信)

ひざ上までズボンをまくって川の中より撮影。冷たい水も三台のたくましい D51 たちを見ると苦にならない。

快　走

北海道　函館本線　黒松内〜熱郛

かつて C62 と言えば押しも押されもせぬ日本の代表的な機関車であったが、SL のいない今ではむなしい限りだ。

サミットまであとわずか

九州　日豊本線　国分〜南霧島 (信)

山間にひびき渡るドラフト。
さえ渡る鳥の鳴き声、
ブラスト音も入って合唱の始まり。

トンネル

東北　会津線　桑原〜湯野上

会津線に於いてこの区間にはトンネルも多く、その一つから絶気で安全弁を吹いて来る C11 を狙った。

のんびり走るポニー　東北　小海線　小淵沢〜甲斐小泉

南アルプスの見える C56 の走る道。

カワラ屋根

中国　山陰本線　田儀〜波根

山陰独特のニスを塗ったような
カワラ屋根が美しい。

夏

夏の峠道は暑い。汗があとからあとから容赦なく出て来る。もうかれこれ２時間は歩いているだろうか。いい撮影場所が見つからないのだ。４台の重いカメラが、三脚と共に肩にくい込んで来る。
日影で寝ころんだらさぞ気持ち良いかと思って休んだが、ハエが顔の回りにやかましくまとわりついてくるは、アリが身体に登って来るはでイライラして来る。
第一ここで休んでいるひまはないのだ。
時間がないのだった。あきらめたら終わりだ。何のために夜行列車にまで乗ってやって来たのかわからなくなる。
ＳＬの走る構図を頭に描いて見た。
だが暑さのためか、頭がボーッとしてめまいにも似た症状がおそって来る。しかし時間がない。もうすぐ汽車が来る！ひたすら汗を落として歩く、走る、また歩く。
写真を撮り終えて帰る山道の片すみに、きれいな水が湧いていた。そこには、荷物をなげ出して水にたわむれる姿があった。

夏を行く
釣り人
須佐湾
ひっそりと
斜里岳とハマナスとＳＬと
ポニーは行く
高原列車
発　車
Ｄ 51 は行く
朝日を浴びて
エゾスカシユリとＣ 58
山間の町
驀　進
田園風景
山あいを縫う
走　る
真夏の日射しを受けて
山間の出会い
峠を目指す
夕日に映えるＣ 57
日本海
Ｃ 57 とフェニックス
Ｄ 51 が行く
夕暮時

夏を行く

東北　五能線　深浦～広戸

東北地方に海水浴シーズンが始まる頃、この鉄路にも強い日射しが照り始める。

釣り人

中国　山陰本線　岡見〜鎌手

釣り人を横目に走り去る山陰のＳＬ。
D51。平坦線区をゆく D51 には軽い。

須佐湾　中国　山陰本線　須佐～宅田郷

山々に囲まれた須佐湾をバックに力行するＳＬ。

ひっそりと

東北　只見線　会津宮下〜早戸

まるで湖を思わせるような只見川
数え切れない程のＳＬマニアが
通った。そこにはＳＬを追う男の
ロマンがあったにちがいない。

斜里岳とハマナスとＳＬと

北海道　釧路本線　北浜～浜小清水

原生花園に花のかおりが漂う頃。C58 にとって楽しい日々が続く。

ポニーは行く

北陸　七尾線　西岸〜能登中島

客車の先頭に立つC56には力強さよりもかわいらしさだけが残った。

高原列車

東北　小海線　野辺山〜清里

ひばりの声がさえずる信州の里にドラフト音も負けずと一段と冴え渡る。

発車

九州　吉都線　加久藤～上江

都城目指してD51は快走する。

D51は行く

近畿　紀勢本線　亀山〜下庄

夏は呼んでいる。SLは走る。力闘するSLに「ガンバレ！」とかけ声をかけた。

朝日を浴びて

九州　志布志線　安楽～中安楽
朝日を浴びてC58はダッシュする。
そして大隅地方の一日が始まる。

エゾスカシユリと C58

北海道　釧網本線　北浜〜浜小清水

北海道地方に生温かい風が吹く頃になると、
あちこちで花が咲き始めるのだ。

山間の町

中国　山口線　津和野〜般平山

小京都「津和野」の一角に力闘する姿がそこにはあった。

驀　進

北海道　函館本線　銀山〜然別

ハドソンと呼ばれる C62 には、
やはり王者の風格があった。

田園風景

九州　吉都線　加久藤～上江

駅を出たばかりの客車は峠を目指して力闘する。

山あいを縫う

九州　日豊本線　国分～南霧島（信）

国分を発車した列車は上り勾配の連続で霧島越えにいどんで行く。この地点はトンネルを出たばかりで、この奥深い山中では今にも陽が沈みかけようとしていた。

走　る

中部　中央西線　田立～南木曽

初夏の木曽路を訪れた。この日は、もう夏そのものを感じる猛暑であり、煙も白く飛びがちであった

真夏の日射しを受けて

近畿　関西本線　加太〜中在家（信）

満身の力をこめてD51は走る。力闘する。峠は目前だ！後補機もがんばれ！

山間の出合い

九州　肥薩線　真幸駅にて

客車と混合列車との出合いがそこにはあった。

峠を目指す

九州　肥薩線　真幸駅にて

2両の客車とはいえども連続する急勾配のもとにはドラフト音も途切れがちだった。

夕日に映えるC57

九州　日豊本線　清武〜日向沓掛

一日の暑い日射しがまもなく終わる。かろやかに！リズミカルに！C57は快走する。

日本海

中国　山陰本線　小田～田儀

山陰海岸横目にD51は走る。波の音も気がつかない。そしてひたすら走る。

C57とフェニックス

九州　日豊本線　宮崎～南宮崎

大淀川畔に立つC57。背伸びするフェニックス。走る。休む。又走る。

D51が行く

北海道　函館本線　目名〜上目名

春を待っていた峠道。ゆくぞ！とばかりにD51は走る。

夕暮時

中国　山陰本線　五十猛〜仁万

夕暮の道、カラスが鳴いた。子供たちが帰ってゆく。D51 は走る。

秋

ひまが許す限り、機会あるごとに、何時間何十時間かけて数え切れない程ＳＬに会いに行ったあの頃。
雨が降ろうが、雪が降ろうが、台風が来ても三脚にカメラを乗せレリーズを持ち、おまえが来るのをじーっと待っていたあの頃。いろんなヤツがいたっけ。
大畑のループ線を回っていたD51。
流氷のオホーツク海を走っていたC58。
霧鳥越えをけむたそうにして走っていた貴婦人C57。
ＳＬ急行列車最後の役目を果たしたC62。
キューロク(96●●)、ハチロク(862●)、
シーチョンチョン(C11)。
みな、どんな顔ぶれを見てもなつかしいヤツ。
そうそう駄々ッ子もいたっけ。おまえの顔を見ているだけで楽しくなる私。おまえと一生を共にしたかった私。
そんな私の気持ちも知らないで、姿を消してしまったおまえ。だが私は悲しみはしない。
たとえレールの上を走る姿を見る事が出きなくても……。

ポニー
たたずまい
ふるさと
秋色
秋深し
築堤
寸景
うるしの木
9600 通過
鉄橋をゆく
D5l とたばこの葉
C57 三重連
秋をのせて
C57 が帰る
会津の里
山間にこだまする
力闘する C57
冬間近
C56
客車けん引
秋の訪れ
トウモロコシ畑
川畔
実のりの秋
山陰海岸

晩秋の影を落として
日南３号
山峡の秋
御地蔵さん
南国のＳＬ
ボタ山
東北の秋
快走する C55
秋のかほり
バック運転
石灰石を運ぶ D51
日南の朝
杉林
峠道
ＳＬとの出会い
食事中
晴舞台
D5I 三重連
呼吸を合わせて
煙たなびく C58
秋日和
一条の白い煙
重装備

ポニー

東北　小海線　甲斐大泉〜甲斐小泉
驀進してくるC 56には力強さよりも
かわいらしさが印象的だった。

たたずまい

東北　只見線　会津西方～会津宮下

涼風吹く会津の里をかけあしするようにあわただしくC11が走ってゆく。

ふるさと

中国　山口線　津和野〜船平山
ワラぶき屋根とＳＬ、それは昔、子供の頃見た、見覚えのあるなつかしい景色だった。

秋色

北海道　石北本線　金華～常紋（信）

山々が除々に色ついてゆくさびしい峠道

も色ついてゆくすばらしい季節だ！

秋深し東北

会津線　門田～上三寄

鳥居の彼方を走るC11を見た時そこには
会津の里を思わせる寸景があった。

築堤

中国　山陰本線　五十猛～仁万

C57に引かれた客車が走る。山陰地方に朝が来た。

寸景

中国　山陰本線　小田〜田儀

そこにはポツンと御地蔵さんがあった。ＳＬが来た。そして秋も来た。

うるしの木

北海道　深名線　鷹泊〜沼牛

うるしの木に囲まれた❾６００の姿があった。
そして私は、そこに秋のけはいを感じたような気がする。

9600通過

北海道　名寄本線　一ノ橋から上興部

力闘する9600のドラフト　昔も今も流れの速い川の音の前にはかき消されがちであった。

鉄橋をゆく

九州　田川線　崎山～油須原

セキを従えてD600は力闘する。

D51とたばこの葉

九州　日田彦山線　香原〜採銅所

石灰石を満載したSLが走る。
カーブを切ってD51は懸く。煙をふかしながら

C57 三重連

中国　播但線　生野〜新井
C57 貴婦人が三台力を合わせて
峠を越えてゆく。

秋を乗せて

北陸　七尾線　能登中島～西岸

稲も刈り終わり晩秋の鉄路を峠目指してC56は走る。

C57が帰る

中国　山陰本線　五十猛〜仁方

晩秋の候、大築堤を貨物したがえC57は走ってゆく。

会津の里

東北　只見線　会津大塩～会津横田

稲刈りも終わり、静かなたたずまいの中に
ひっそりと走るC11の姿があった。。

山間にこだまする

東北　只見線　滝谷付近
山あいにひびき渡る汽笛。高くさえずり渡る鳥の声。そこには深まりゆく秋のドラマがあった。

力闘する C57

九州　日豊本線　国分～南霧島（信）
C57 の引く貨物列車が走る。25％の勾配をものともせず走る、力強く！時には華麗に！

冬間近

九州　日南線　榎原～日向大束
稲刈りも終わり柿も実った。
C11 はかろやかに走ってゆく。

C56
北陸　七尾線　穴水〜能登三井
峠道を走るいつも見慣れた道。ブラスト音をひびかせ峠道を走る。

客車けん引

北陸　七尾線　能登中島～西岸

C11がバック運転で走った。客車も引いた。実りゆく秋の中で！

秋の訪れ

東北　只見線　会津宮下～早戸

只見川に紅葉の季節が訪れる頃、東北地方にも秋の気配が漂う。

トウモロコシ畑

北海道　根室本線　赤平～東滝川

実りゆくトウモロコシ畑の彼方を走ってゆく。脇目も振らず D51はゆく。

川岸

東北　只見線　会津水沼〜会津中川

滑み切った川畔にC11の姿が写る。見慣れた会津の里の寸景。

実りの秋

九州　日南線　福島高松〜福島今町

ブラスト音も高らかにC11が駆け抜けてゆく。
スズメもチュンチュンと啼いていた

山陰海岸

中国　山陰本線　八田〜田儀

深まりゆく秋、快走するD51。海も青く、今日は空気もうまい。

晩秋の影を落として

東北　只見線　会津檜原〜会津西方

只見線にかかるアーチ橋に、今にも陽が沈む。
C11通過――それは一瞬の出来事だった。

日南3号

九州　日豊本線　清武～日向沓掛

急「日南3号」の先頭に立つC57その名は貴婦人。
西日に照らされるその姿は美しい。

山峡の秋

東北　会津線　桑原〜湯野上

会津の里にも秋が来た。深まりゆく秋が来た。
C11が貨物列車を従えて走って来た。

御地蔵さん

東北　只見線　会津宮下～早戸

そこにはひっそりとした、たたずまいがあった。
心なしかＳＬの汽笛も物悲しく聞こえた。

南国のSL

九州　日豊本線　清武～日向沓掛

宮崎を後にした列車は峠を目指し息つくひまもなく走る。

ボタ山

九州　後藤寺線　船尾〜後藤寺

北九州にはボタ山が多かった。そして石炭を運ぶ列車も。

東北の秋

東北　会津線　湯野上～弥五島

夏の賑わしかった会津地方にも冬を待つ晩秋の姿があった。

快走するC55

九州　日豊本線　清武〜日向沓掛

のどかな景色が点在する日向の国。
C55ものどかに走っているようだった。

秋のかほり

九州　山野線　吉松〜栗野

柿が色づいていた。稲も刈り終わった。
秋を乗せてC12が走る。

バック運転

九州　後藤寺線　船尾～後藤寺

2台の９６００が息を合わせて走る。
セキを従えて走る。鉄橋渡る二人づれ。

石炭石を運ぶD51

九州　日田彦山線　香原～採銅所

この地方に「蚊」がたくさんいるかは定かではないが、撮影中十数カ所「蚊」にさされた。

日南の朝

九州　日南線　南郷～大堂津

はるか彼方小島が微笑みかけるようにC11に当たった。
そして透き通るような息を吐いて走り去った。

杉林

九州　志布志線　伊崎田～安楽

蛇行する鉄路をぬうように志布志線の主C58が力闘する。

峠　道

北海道　函館本線　小沢～倶知安

峠道を越えると倶知安までもう一息だ！「C623＋D51」の重連背後から夕日を浴びて驀進する。

SLとの出会い

東北　花輪線　岩手松尾〜竜ケ森

862●がパッと現れた。かけ抜けてゆく。
ススキに囲まれた秋の道。

食事中

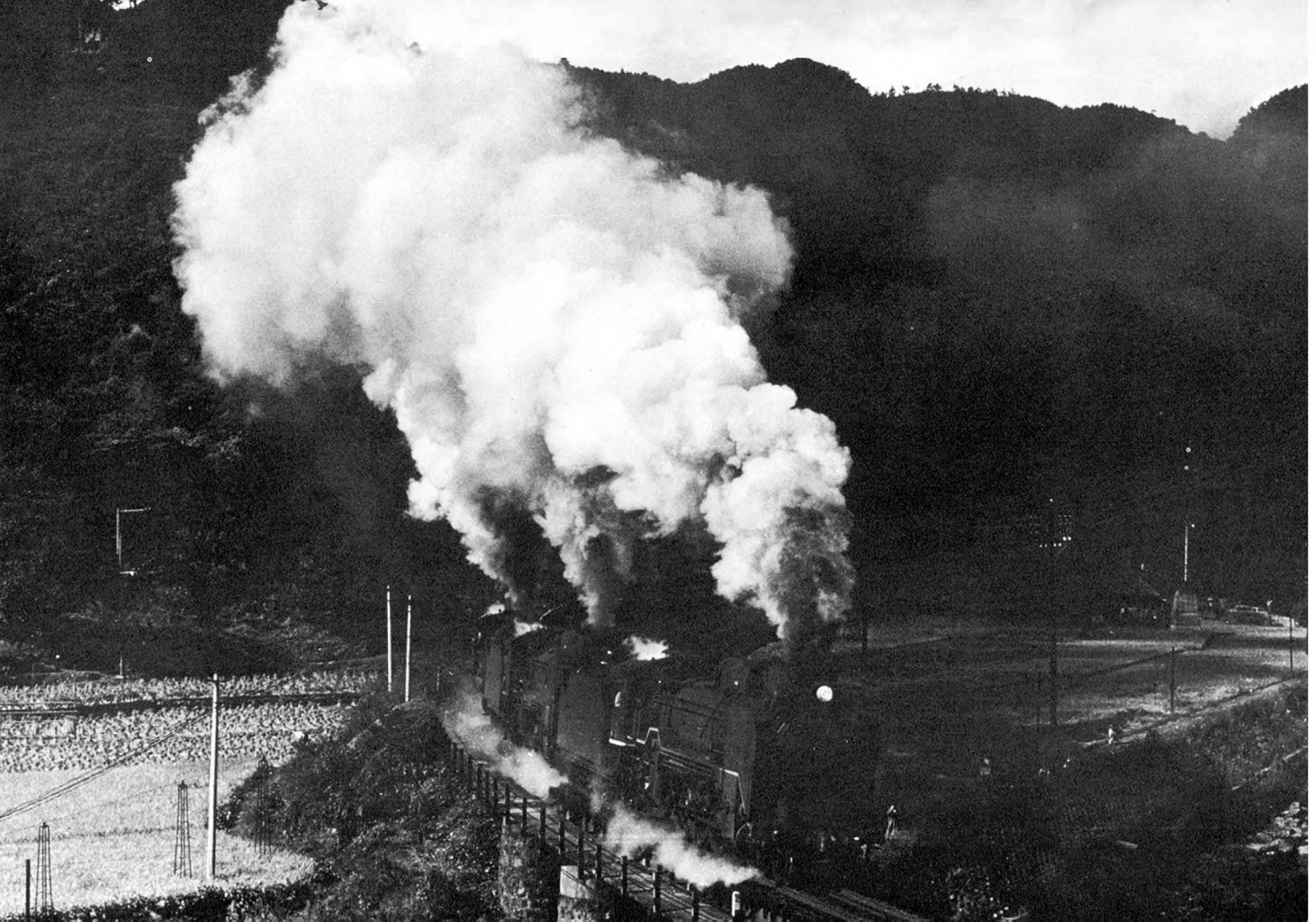
東北　只見線　会津水沼駅にて

そこには犬がいた。カップヌードルを買って食べさせた。
その背景には走り去るC11の姿があった。モデル料百三十円

晴舞台

九州　日豊本線　国分～南霧島（信）

日豊本線にＳＬけん引最後の日が来た。幾度となく越えた思い出の峠道。



D51三重連

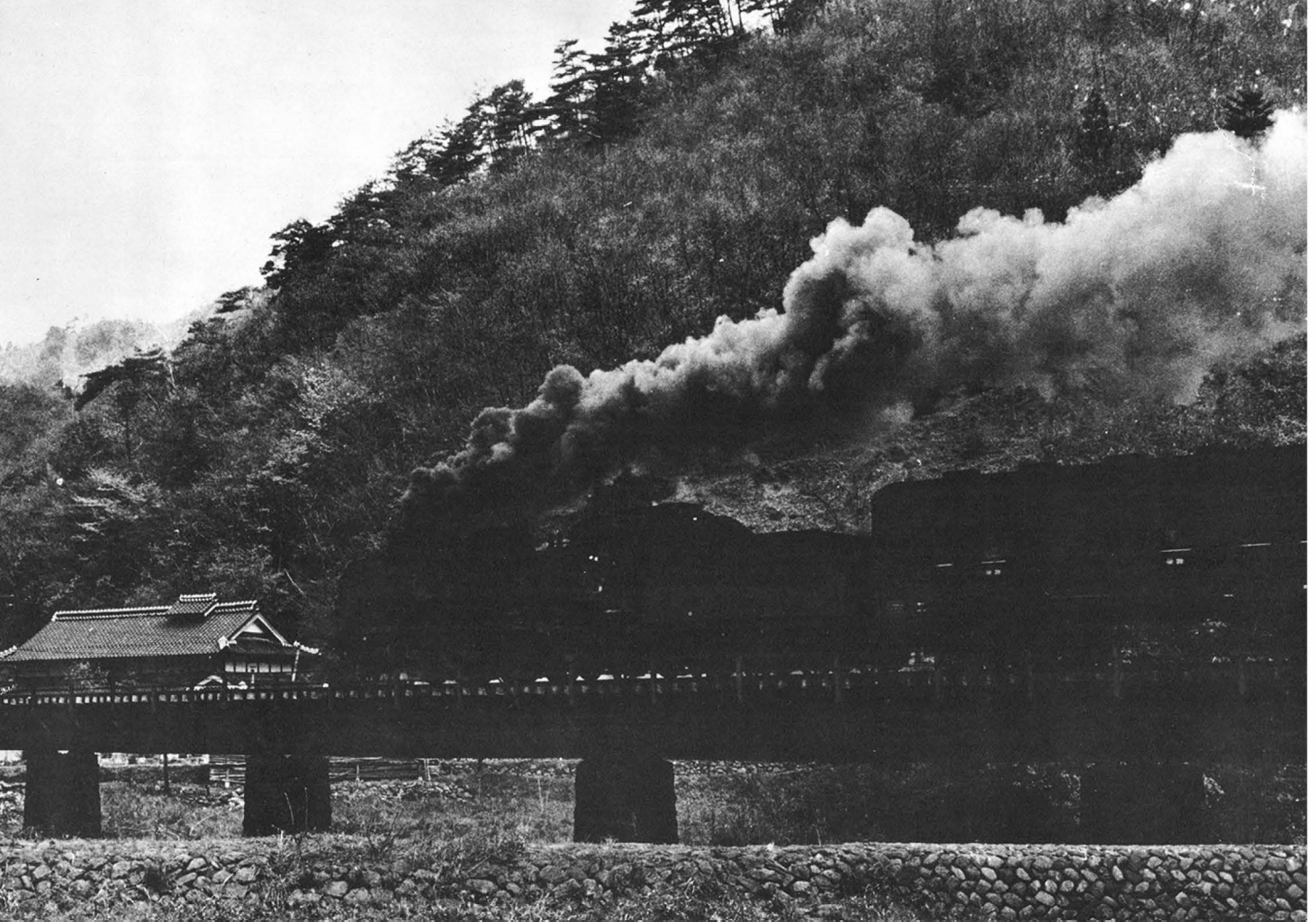
中国　伯備線　布原（信）～新見

布原信号を発車した三重連は鉄橋を渡りトンネルへ飛び込んでゆく。

呼吸を合わせて！

九州　田川線　勾金～油須原

前に後に●６００は走る。筑豊地方に力闘する。



煙たなびくC58

中国　伯備線　布原（信）～備中神代

山々の木々も色あせてC58の走るこの線区でも冬の訪れを待っている。

秋日和

中国　伯備線　布原（信）～新見

朝もやをついてC58はゆく。

一条の白い煙

九州　肥薩線　大隅横川〜栗野

C57の引く列車があっという間に真っ白い煙を残して走りすぎていった。ワラブキ屋根の見える肥薩路。

重装備

北海道　函館本線　目名～上目名

C62とD51のコンビが仲良く手に手を取り峠を越えてゆく。

冬

○月×日。何回となく見て来た北海道の冬。うす暗い空に星がまだあった。宗谷本線名寄駅から分かれて、深名線の北母子里駅下車。
降りたのは私だけだった。鼻毛が凍りついてむずむずする。温度計が－ 15℃を指していた。駅舎の外に出ると、空気が凍って、登り始めた太陽の光に照しだされて、キラキラ飛んでいるのが見える。
快晴。実に空気がうまい。青空の中に思い出せないが、何かの形に似た雲がポッカリと浮んでいた。
目的地目指して歩き始める。右に左に山間をぬうようにして引かれている線路にそって歩く。しかし思うように進まなかった。雪が足にからみ、行手をはばむ。雪道の５キロはとてもつらい。
途中でコーラの栓を抜く。のどにしみ渡り、夏に飲むのとは一味違う。
トンネルを越えると目的の場所はあった。少し高い所へ登り線路を見下せば、眼下に広がる雪景色が一段と美しい。シャッターを押すばかりにセットして、じっと待ったことしばし。
ふと横を見ると、動物の足跡らしいものが、生々しく点々と見えるではないか。私の手の平の４倍くらいはあるだろうか。どう考えても、熊の足跡としか思えなかった。

大カーブ
山水画
山あいにかかる橋
冬枯れ
山の彼方
冬の快走
牧場
ＳＬと鉄橋
流氷
凍てつく朝
冬の斜里岳
流氷の海
冬の峠道
大湿原
晴れ姿
南郷谷
日南の海
のどかな風景
山なみをついて
利尻富士
冬景色
岬
冬の湿原を行くＣ５８
冬の日射しを浴びて
幸せ行きのＳＬが行く

Ｃ５８の走る冬の道
一番列車
羊蹄山のふもとＳＬが行く
行きの峠道
Ｃ１１の正月
ワラブキ屋根
冬の海岸線
大雪原
硫黄山
客車列車
塩狩峠
雪の降る鉄路
驀進
湿地帯
会津冬景色
常紋峠
ふりしきる雪
朝に輝く
山間部
新線を走るＤ５１
渓谷を行く
峠の朝
峠越え
新屋の機関区

大カーブ

北海道　石北本線　美幌～緋牛内

一条純白の煙を吐いてC58は力走する。満身の力をふりしぼりかけ抜けていった。

山水画

北海道　根室本線　別保〜上尾幌

まるで絵巻物の様な風景に北国のきびしさを見た。

山あいにかかる橋

九州　高森線　立野～長陽

南郷谷にさし込む朝陽に照らし出されたC12がくっきり浮かぶ。

冬枯れ

北海道　根室本線　落石～別等賀

原始の世界へ行ったような錯覚を覚えた。
どんよりとした冬空の下C58は駆け抜けてゆく。

山の彼方

北海道　興浜北線　斜内〜目梨泊

はるか彼方に一条の白い煙が上がった。やっと来た。
待ちに待ったやつがやっと来た。

冬の快走

北海道　釧網本線　斜里〜中斜里

冬景色の中をC58がスイスイと生き物のように走り去ってゆく。

牧　場

北海道　日高本線　日高三石～蓬栄

サラブレッドが日なたぼっこをしていた日高地方の冬。C11が貨車を従え駆け抜けて行った。

SLと鉄橋

北海道　根室本線　釧路〜東釧路

この日、釧路川には流氷が流れて来た。私もC58と一緒になって見た。

流　氷

北海道　釧網本線　北浜から浜小清水

オホーツク海にアメーバのように流氷が広がっていた。
流氷にのっての撮影。命がいくつあっても足りないと感じた。

凍てつく朝

北海道　根室本線　別保〜上尾幌

凍てつく冬が鉄路をおそった。それにもめげず放物線のような白い煙を吐いて走って行った。

冬の斜里岳

北海道　釧網本線　斜里〜中斜里

斜里岳のふもとC58が走って来た。雪に埋もれた冬の道。

流氷の海

北海道　根室本線　落石～別当賀

冬を飾る流氷鉄路をゆくＳＬ。ここのヒーローは雪と流氷とＳＬか。

冬の峠道

北海道　石北本線　金華〜常紋（信）

山あいに汽笛が轟き、大地をゆるがす長い貨物を引くＤ51にとって冬の鉄路はきびしい。

大湿原

北海道　釧網本線　茅沼〜塘路

釧路湿原に広がる雄大な景色。人間より大きいSLもここでは小さく見える。

晴れ姿

北海道　根室本線　落石〜別当賀

枯れ草に雪がふんわりと乗っていた。そこを歩くと足あとがついた。だから回り道をした。

南郷谷

九州　高森線　立野〜長陽

阿蘇山のふもと立野目指してC12が走ってゆく、転がるように走ってゆく。

日南の海

九州　日南線　南郷〜大堂津

いくつもの小島が点在する日南海岸C11にとってもこの日南地方の冬は日中暖かかった。

のどかな風景

九州　日豊本線　田野〜日向沓掛

峠を越えて来たC57が宮崎目指して力走する。

山並みをついて

北海道　瀬棚線　茶屋川～美利河

私は登った。ひたすら登った。この一本の列車を撮るためにひたすら登った。そしてC11は来た。

利尻富士

北海道　宗谷本線　南稚内〜抜海

はるか彼方にうっすらと利尻富士が見えた。海の近く９６００が走ってゆく。

雪景色

北海道　夕張線　川端～滝ノ上

氷のはった川の中央から撮影　夏に又その場所を見た時、そこは舟で行かなければならない所だった。

岬

北海道　興浜北線　斜内〜目梨泊

SLにおおいかぶさるようにそびえ立つ山があって、その名は北見神威岬と呼ばれていた。

冬の湿原を行くC58

北海道　釧網本線　茅沼〜塘路

釧路湿原を行く混合列車は、素晴らしい山々が拍手を送っているかのように見えた。

その日射しを浴びて

北海道　根室本線　厚岸〜糸魚沢

朝日を浴びてC58は快走する。冷たい空気にあたりながら快走する。

幸せ行きのＳＬが行く

北海道　広尾線　幸福駅にて

「愛の国から幸福へ」落ち葉松バックに幸せ行きのＳＬが走ってゆく。

C58の走る冬の道

東北　陸羽東線　羽前赤羽〜堺田

C58が2台で力を合わせて貨物列車を引いてゆく。

一番列車

九州　日豊本線　青井岳駅にて

ひっそりとした山間の駅にのろしのような煙が上がった。C57の出発である。

羊蹄山のふもとSLが行く　北海道　函館本線　小沢～倶知安

冬であっても太陽がカンカンと照りつける中での撮影は汗が水のように出てつらい。羊蹄山バックに走るD51にとってもつらい仕事であろう。

雪の峠道

北海道　留萌本線　恵比島～峠下

降りしきる雪をついてD61がダッシュする。きびしさ残る冬の峠道。

C11の正月

九州　日南線　伊比井〜北郷

日南地方にも正月が来た。
正月が来たとばかりにC11の汽笛が鳴いたようだった。

ワラブキ屋根

東北　会津線　湯野上〜弥五島

ひっそりと立っているワラブキ屋根の家。
C11もひっそりと走った。

冬の海岸線

北海道　羽幌線　力昼～小丹別

山間の中に海が見えていた。ガンバッテ走るＳＬの姿も見えた。

大雪原

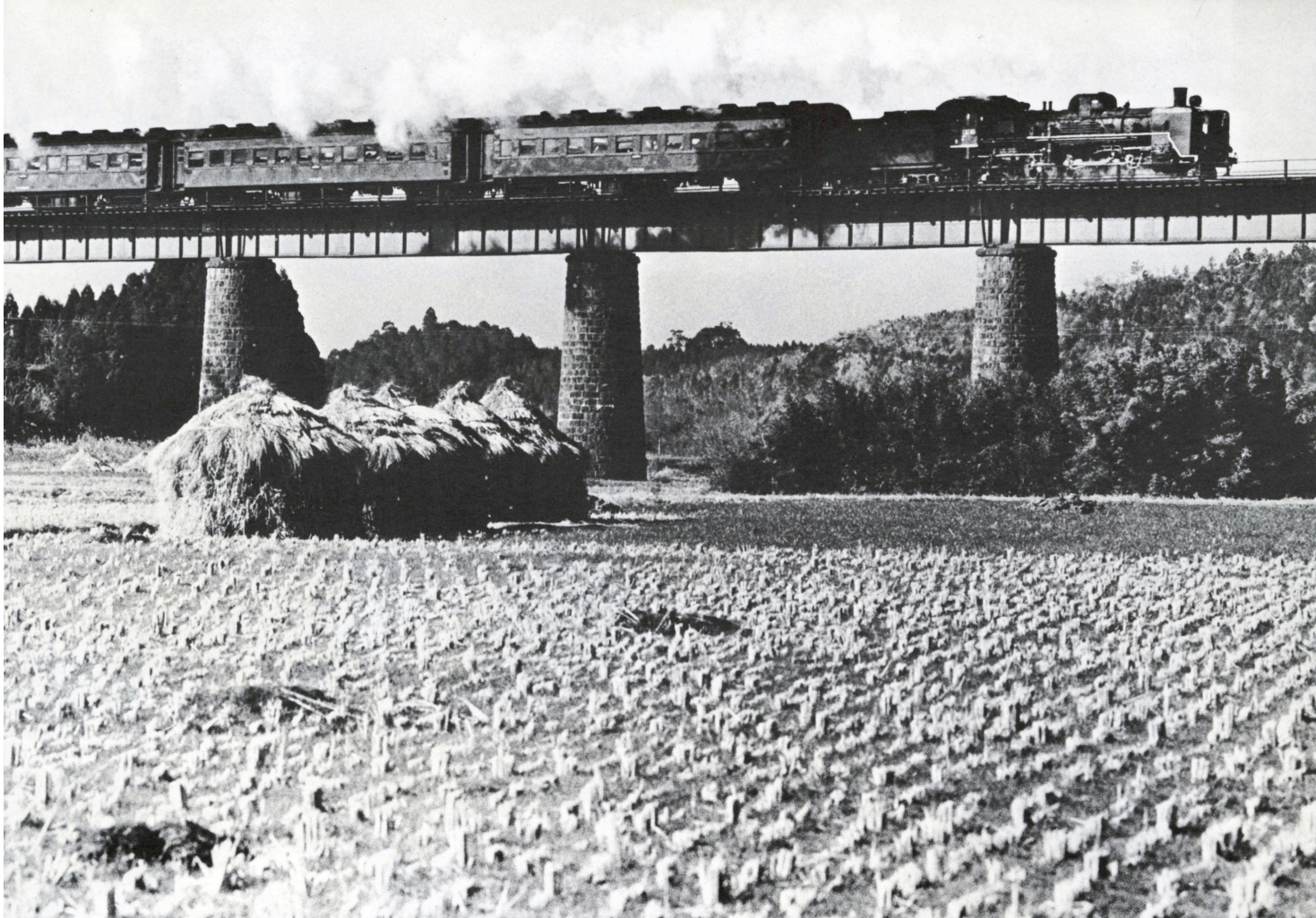
北海道　深名線　天塩弥生～北母子里

クリスマスを思わせるような木々がたくさん点在していた。
峠を越えて来た９６００は転がるように走ってゆく。

硫黄山とSL

北海道　釧網本線　川湯〜緑

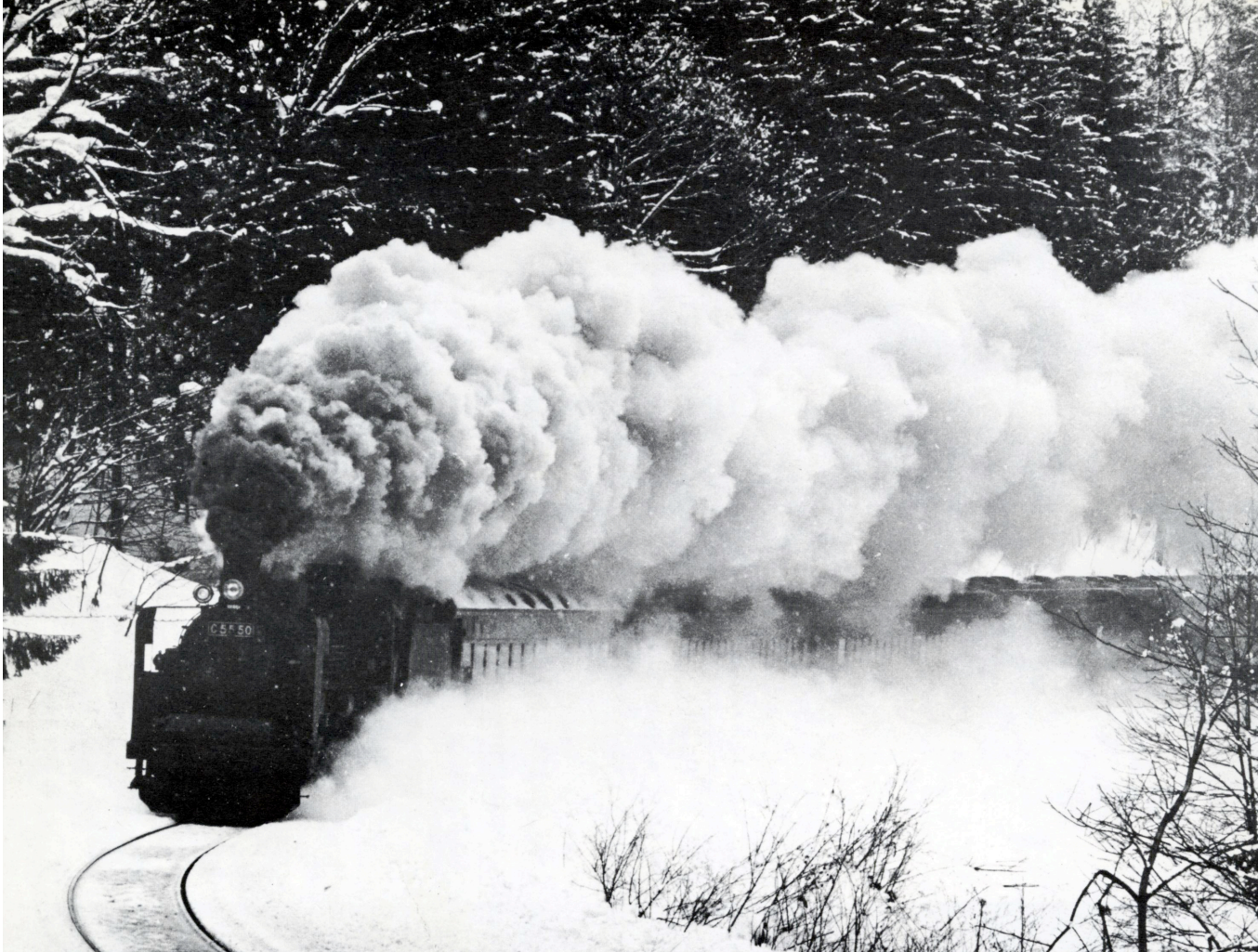
荒れた岩はだを見せる硫黄山のふもとにC58が駅をあとに峠を目指す。



客車列車

九州　日豊本線　山之口～楠ケ岡（信）

稲刈りを済ませた鉄橋の上をC57の引く客車が日の光をサンサンと浴びて走って行く。



塩狩峠

北海道　宗谷本線　蘭留〜塩狩

木々に積もった雪がなんとも言えず撮る。
数少ない客車列車を写す一瞬の出来事だった

雪の降る鉄路

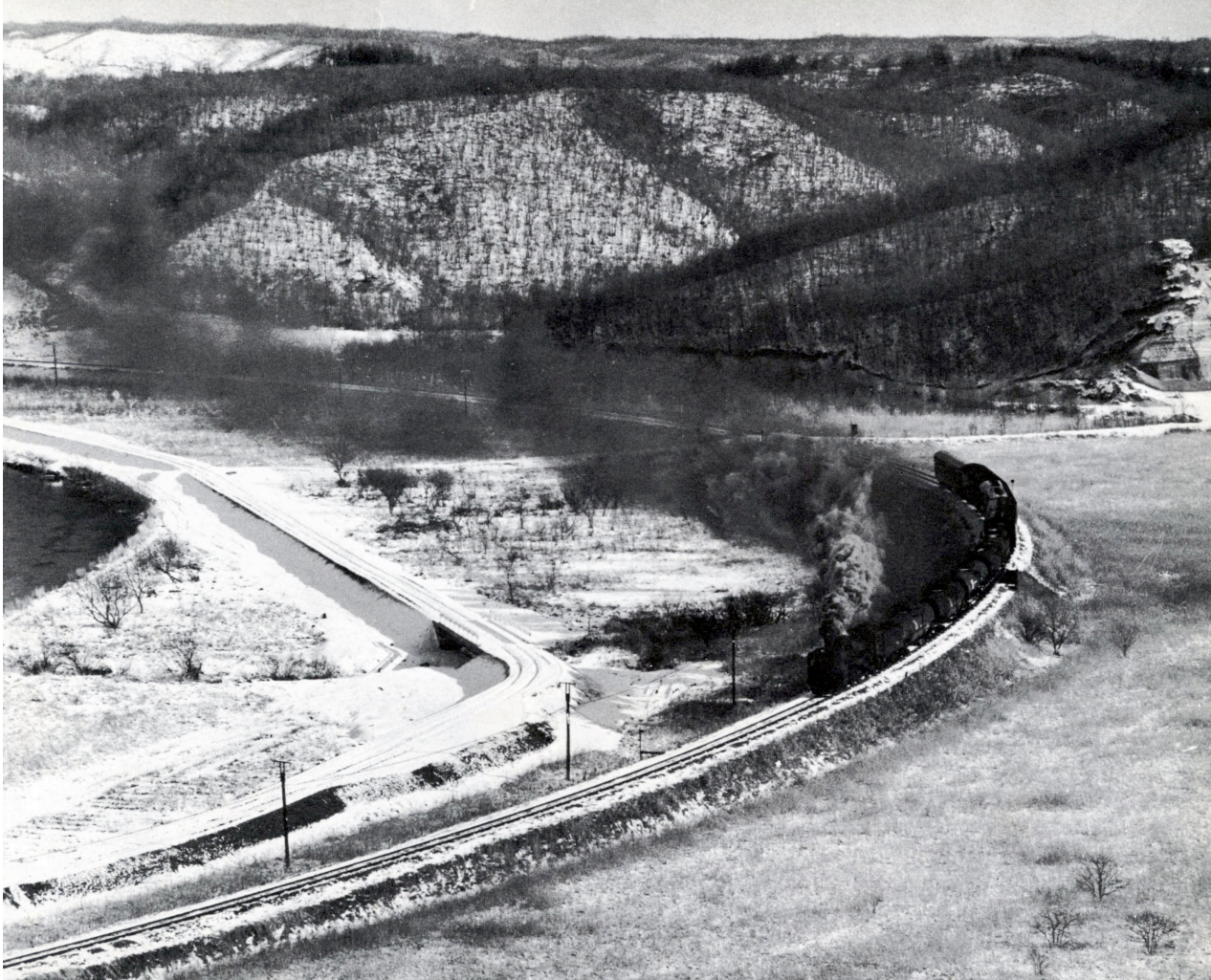
東北　只見線　滝谷駅にて

雪の降りしきる滝谷駅発車。その名はシーチョンチョン。

驀進

北海道　室蘭本線　栗岡〜栗山

この区間はとても列車本数が多い所でフィルム一本軽く使ってしまいそうだった。
雪が降りしきっていたので煙の出具合も一段とよかった。



湿地帯

北海道　釧網本線　畑岡～遠矢

C58の引く混合列車が釧路湿原を走ってゆく。

会津雪景色

東北　会津線　桑原〜湯野上

画に描いたような寸景にC11が飛び出てきてはトンネルの中に消えていった。

常紋峠

北海道　石北本線　金華～常紋（信）

春の訪れを待つ北海道Ｄ51は驀進を続ける。

降りしきる雪

東北　只見線　滝谷駅にて

空が灰色になったかと思うと一瞬のうちに雪が降って来た。

朝に輝く

北海道　根室本線　厚岸〜糸魚沢

朝日に照らし出されたC58が海辺に影を落として走ってゆく。

山間部

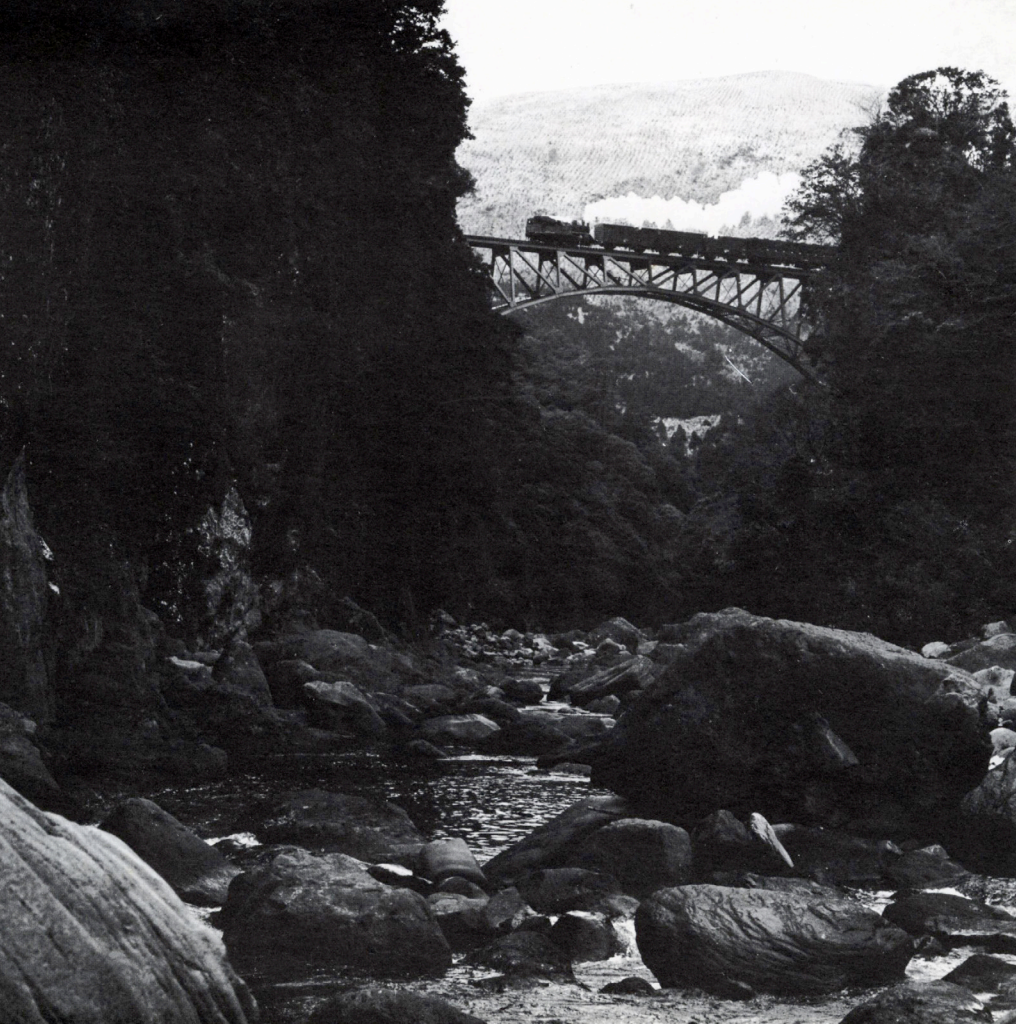
関西　信楽線　貴生川～雲井

短い編成ではあったが 32‰の勾配の前には息も途切れがちだった。

新線を走るD51

北海道　函館本線　七飯〜渡島大野

ふだんから見なれたＳＬが走ってゆくので見向きもしない子供がいた。Ｄ51もよそを見ているようだった。



渓谷を行く

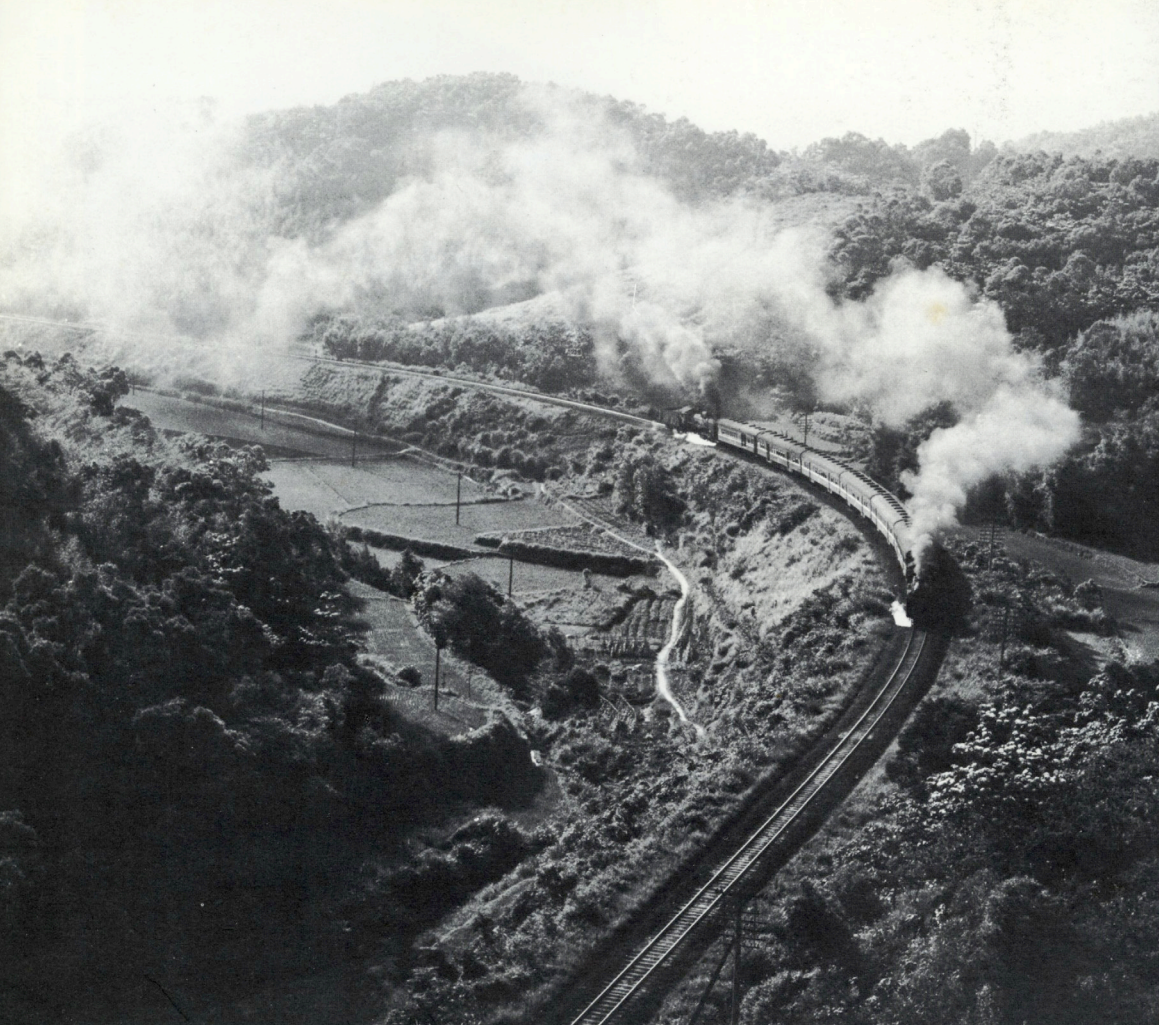
九州　高森線　立野〜長陽

阿蘇のふもと南郷谷を渡るC12　吐く息も白く、川の流れも静かに！

峠の朝

九州　日豊本線　青井岳～楠ケ丘（信）

朝の日射しを一杯に浴びて走るC57この先トンネルがいくつも待っている。



峠越え

台湾　縦貫線　豊富～苗栗

25‰の勾配に補機の力を借りて峠を越えてゆく

深夜の機関区

北海道　名寄機関区

宗谷本線の一仕業を終えて一人になったD51

あとがき

幾度となく、ひまが許す限り、日本の角々迄出かけて行っては、無我無中でシャッターを切って来たＳＬの走る道、鉄路。

三脚にカメラを３台も４台も乗せて構図を決め、やって来るＳＬがカメラのフレームに入いると、緊張した面持ちでレリーズのボタンを押した日々。

それが終ると、仕事の待っている職場へ戻って行く。また出かける。写真を撮るこの単純な繰り返しの生活が、６年近く続いた。そのために途中で無理をしたため、病気 (食事３回の所を１回に減らしてフィルム代に回した事が原因で) になった事もあったが、とにかくよく行った。

私の住んでいた大宮は、時間的・地理的に北へ行くにも、南に行くのにも、とても都合よかった。そのせいか、６年の間に九州の地をふんだのが 74 回、北海道へ 54 回、ましてや中国地方にある伯備線へは、通算して 12 回も行った事があった。

写真的な技術が無知な私にとって、人様の前に出して見せる様な写真は１枚もないのであるが……。

ここに出版の運びとなった大それた原因の背景には、自分なりに努力、工夫をして来たという自負があるからに過ぎない。

写真を撮り終えて帰途に着く列車の中では、たえず次の撮影目的地の列車運行状態や、撮影場所などを、いろいろなガイドや時刻表で調べたりした。

やって来るＳＬのシャッターチャンスをつかむために近くの線路へ行き、国電にフィルムのはいっていないカメラを向けては、無邪気な顔をしてシャッターを押したりした事もあった。だから１日に１列車しかこない線区でじっと待ち、SL が来た時無性の喜びを感じるのである。だが、長い歳月の中には失敗も多い。例えば、フィルムを巻き忘れたカメラのシャッターが切れず、茫然と立ちつくしていた事もあった。

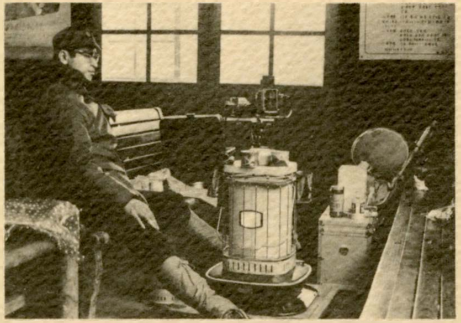
回想するにつけて思い出も尽きないが、いろいろな思い出の写真を乗せたＳＬの本を出す計画をしたのは、今から３年ぐらい前であった。だが、ＳＬ撮影に行きながらの写真集出版となると、もっといい写真を撮って来たら本に乗せようと思いつつも、とうとうＳＬ牽引最後の列車が、室蘭本線に走ってしまったのである。

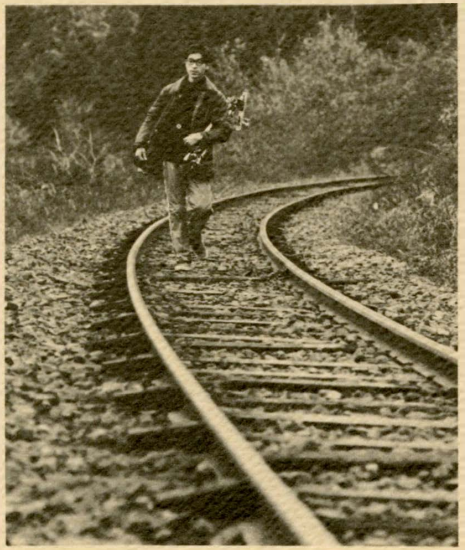
それから企画・編集・プリントを行なった訳であるが、この中でやはり数多いネガ (約１万枚) の中から、どれを載せるか選択に手間どってしまい、とうとう時期はずれの出版になってしまった。

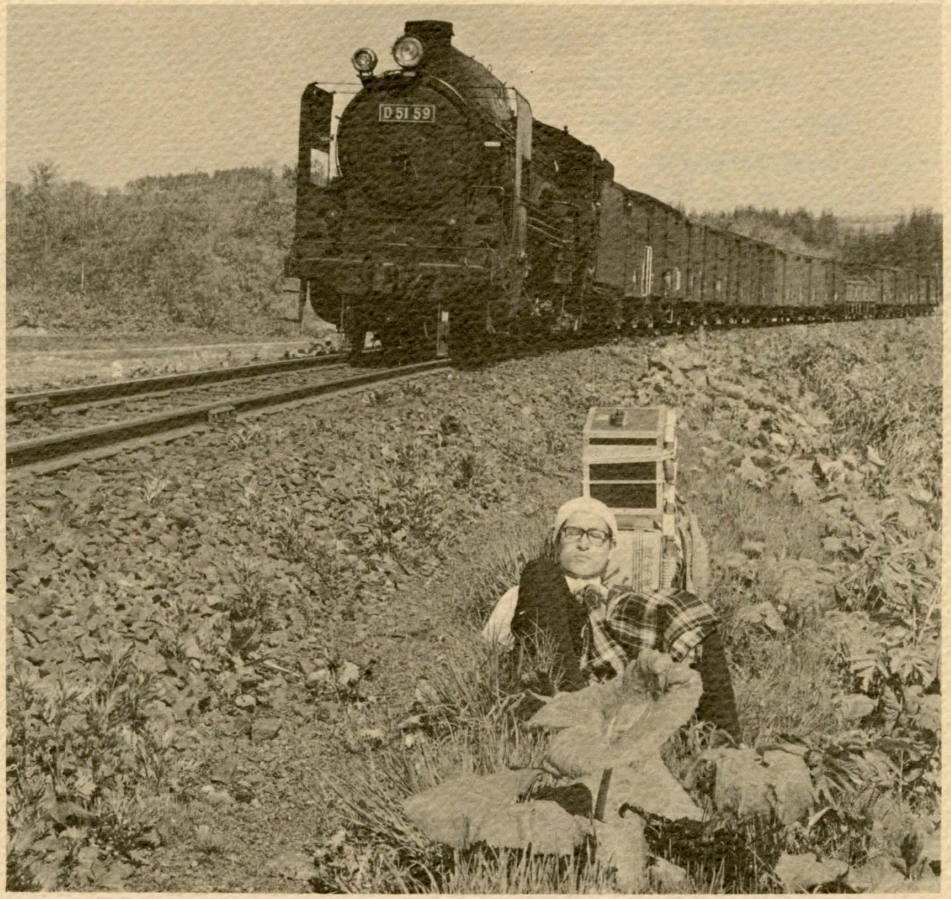
しかし、ＳＬを心の底からこよなく愛し、人間の作った機械の中で最も人間らしいＳＬを大好きな私にとって、この写真集を見てくれた人々に、多少なりとも賛同を得られた事と理解し、心の底から感謝申し上げると共に、この写真集を大事に保存してくださるよう、切にお願い申し上げます。

最後に、影になり、日なたになりして協力して下さった吉田克実氏、林繁伸氏、田中悦夫氏には、心から感謝いたす次第であります。

1976 年 12 月 25 日






D51 59

四季を往く蒸気機関車

1977年4月　1日　紙版発行
2015年9月20日　デジタル版発行

著　　者／新屋　和夫
プロデュース／竹下　博
デジタル制作／編集工房ＤＥＰ

© Kazuo Shinya 2015

SLのすべて　新屋和夫写真集